



アクセスみなみ

みんなの「わっ!」フェスタで「輪」を広げよう



①よこはまハギハッキョの子どもたちによる朝鮮半島打楽器の演奏。

②フィリピンのボランティアたちが感情を込めて「私の祖国」を歌いました。

③「街の先生」に登録している箏奏者は、仲間を募ってボランティア演奏を市内の施設などで行っています。この日も13弦と17弦のお箏と尺八の演奏を披露し、好評でした。→



ボランティア団体の皆さま、地域の皆さま、外国人支援・国際交流に関わっている皆様、ご協力ありがとうございました。

来年も皆様と一緒に盛り上げたいと思います。是非また来てください。お待ちしております！



2

恒例となった「みんなの『わっ!』フェスタ」は、今年も12月1日(土)に盛大に行われました。

普段からみなみ市民活動・多文化共生ラウンジを利用している市民活動団体や「街の先生」は、ラウンジスタッフ

と一緒に企画運営し、地域

に住む日本人も外国人も、子どもも大人も交流を深め、楽しいひと時を過ごすことができました。

当日は天候に恵まれ、来場者は700人弱となりました。



3

←④

地域に住む

外国人による自国料理やお茶・お菓子の無料サービスと販売が大人気でした。ロシア・カンボジア・韓国・フィリピン・タイ・ペルー・インドネシア・ハイチ・中国などの美味に、心もお腹も満たされたでしょう。

←⑤マジックは子どもたちを夢中にさせました。



6

↓⑦華やかな韓国朝鮮踊り



7

賑やかなチャンゴの演奏を開始の合図に、ステージでは各国のダンスや歌・演奏が繰り広げられ、珍しい世界の料理や世界のお茶とお菓子などが振る舞われました。



8

↑⑧妖しく美しいアラビア文化圏のベリーダンス出演者は MIC かながわのメンバーと地域のお寿司屋の女将さんでした。

←⑥アロマオイルの手のマッサージ。癒されますね。



受講希望者が 58 人と、定員を大きく上回り、抽選となるほど地域の方の関心の高い講座でした。

■公開講座10月6日(土) 講師: 山田泰久

講師は 2 時間半の間、パワフルに講義を続け、受講生も聞き逃すまいと熱心に聞いていました。受講者はすでにフェイスブックに登録している人、していない人が半々の割合で、フェイスブックの利点や欠点を見極めて、登録を考えたい人や積極的に活用するために使い方を学びたい人など受講動機もさまざまでした。

受講生の感想は

- ・フェイスブック注意事項などを話してもらったので少し安心して始めてみようかと思う。
- ・フェイスブックの目的、活用方法がよくわかった。
- ・何も知らなかったが基礎から話してもらい助かった。
- ・登録だけでもしてみたいと思った。2 時間半があつという間だった。大変わかりやすく楽しく話をきけた。
- ・フェイスブックの効果的な利用方法やホームページ、ブログ等と連動して運用することの大切さがわかった。



■実践講座10月13、20、27日(土)

講師: 勝見隼人(NOGAN)

土曜日 3 回の実践講座は欠席もほとんどなく、フェイスブックへの登録の仕方や使い方を具体的に学習しました。

習熟度の違う受講生で、質問は途切れず、続編を希望するという声が多かったです。11 月には事後相談会を設けました。

日本語ボランティア養成講座 基礎編

第 7 回 日本語の教え方 実践ワークショップ

9 月末から 11 月にかけて 8 回の講座が開催されました。

ボランティアとしての心構えとともに、



外国語としての日本語の基礎知識を学び、地域で暮らす外国人に必要な日本語をどう教えるか・・・その第 7 回の実習風景をのぞいてみました。

各グループでは実習準備に向けた話し合いを進め、各自持ち寄った資料の点検に真剣な面持ちです。当日のワークショップの生徒役 15 名はみなみラウンジに学ぶ日本語教室と多文化フリースクールの生徒です。主婦や学生、年齢・性別・日本語レベルもばらばらで、それぞれ「みんなの日本語」の各レベルに合わせて別れて教わることになっています。

生徒が入場すると双方ともに緊張した空気が漂います。まず全員が自己紹介を日本語で行い、それぞれのテーブルに着きました。ルールは各テーブルの一人が先生となり、他の人は口を挟まずに見守るということ。各テーブルでも自己紹介が始まりましたが、先生役の人の緊張感がこちらにも伝わってきます。30 分後、再びのぞくと部屋の空気がなごやかになり、笑い声が聞こえたりして一変していました。

見ていて感じたのはリラックスした方が、言葉が通じ合えるのではないかとということ。

最後に講師から、教え込むのではなく、楽しいから話せる⇒笑っていられる⇒安心する、尋問はしない。など基本は人と人が接する際最低限必要なマナーを守る(指をささない等)ことが大切との話がありました。そして自然体で話せるお互いの楽な距離を考えることも大事で、その間をできるだけ早く獲得することが、日本語学習をスムーズに進める秘訣なのかなと思いました。

紙芝居「おどりば ダンスホール」出版おめでとう

紙芝居文化推進協議会 片岡直子さん

この作品は、2010 年の第 11 回手作り紙芝居コンクールで最優秀賞(加太こうじ賞)と観客賞を受賞したものです。その後推薦してくれる人があり、老人向け紙芝居として、今秋出版の運びとなりました。作者の言葉を紹介します。「ダンス三昧、医者いらず」私の住む横浜では、社交ダンスサークルの活動がとても盛んです。私は、これまで一生懸命働いてきたおとしよりが、いつまでも心躍るような時間を過ごして欲しいという願いをこめてこの紙芝居を作りました。高齢者施設だけでなく、地域の老人会やこれから高齢期を迎える方にも見て欲しいと思います。



活躍する街の先生

日本の伝統文化を外国人に伝える

南区には、さまざまな知識や技術・技能を持った方々が「街の先生」として登録しています。今回はその中でも外国人に日本文化を伝えている「街の先生」をご紹介します。ここみなみ市民活動・多文化共生ラウンジでは、外国人に日本文化を伝えてほしいという依頼が多くみられるのも特徴の一つです。

今年度“外国人ママのための多文化交流”が南区保健福祉センターの主催で開かれ、藤間菊友さんが日本舞踊・ゆかた・日本髪などを、海老原和子さんが季節にあった折り紙を紹介しました。



南区役所生涯学級“みんなで楽しむ国際交流”では、牧野宗美さんが小松崎宗栄さんの応援を得て、茶道の歴史・礼儀作法・抹茶のお点前を披露しました。



街の先生に派遣をお願いする側は、「それらしい」もので「良し」としたい傾向があり、伝える側としては絶対譲れない部分があるので、その調整をする私たちも一苦労ですが、両者から「やってもらって良かった」「させてもらって良かった」という感想を頂くと本当にうれしくなります。誰にとっても初めての体験で印象がガラリと変わるので、「キチンとしたものを伝えていきたい」という先生方の気持ちも大事にしていきたいと思っています。

山手にある横浜インターナショナルスクールでは、長谷川孝子さんが学校のPTAのグループの依頼を受けて和紙工芸の講師として頑張っています。「YIS Japanese paper craft class」と名前も付き、9月から始まったものの、日本と異なり時間通りに始まらない、欠席が多く用意した材料が無駄になるなど、教える以前の“文化の違いを理解し受け入れる”ことの難しさを実感しているようです。それでも「出席者がたとえ一人でも英会話を楽しみ、日本の文化を伝える喜びがある」とおっしゃっています。



神奈川県立横浜国際高校からは、姉妹校の訪問団が来校した折に日本文化を紹介したいとの依頼。木目込みの鈴手まりが喜ばれるということで、吉田龍子さんが伺っています。10月はドイツの学生たちに体験していただきました。作品が仕上がった時の喜びの顔が自分を元気づけてくれるそうです。



デビュー・フェスタなかむら&

南区「街の先生」パネル展 (3/1~3/31)

★ 街の先生 桑原妙子

「飛び出すお手製カードを作り」2/2(土) 12:30~14:00

★ 街の先生 渡辺ケイ子

「ママのための卒乳・断乳講座」2/25

「楽しく育児をしよう」3/4

「女性の体と知識」3/11 全3回(月) 10:00~11:30

申込み・問合せ 中村地区センター

〒232-0033 南区中村町 4-270 TEL251-0130

パネル展にあわせて、3月10日(日)中村地区連合まつりの際に生涯学習・サークル・市民活動相談デスクを設置します。何か始めて見たい方、サークルを捜したい方ぜひお立ち寄りください。



「歩いてさがそう 南区の魅力」 公開講座



横浜市南区在住の作家、山崎洋子さんの講演会「横浜開港と南区のミステリアスな関係」(主催:みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ)が、12月7日(金)に「吉野町市民プラザ」で開催されました。

講演は「南区まち歩きガイド養成講座」(全5回)の第1回。山崎さんは横浜を舞台にした著書「花園の迷宮」で第32回「江戸川乱歩賞」を受賞しましたが、講演では著書のエピソード、現在の南区を含めた横浜開港当時の様子等をスライドを使い、分かりやすく語っていただきました。

市民活動登録団体紹介

公益社団法人 服飾文化研究会

南教室

事務局 Tel / Fax 045-252-2312

HP <http://www.kimono.ac/>

～日本の伝統文化を今に活かす～

日本の伝統的服飾文化を自国の貴重な一つの文化として大切に考え、調査と研究をし、現代の生活に創造的に活かし、日本の衣文化に貢献して行くことを目的としています。

§ あゆみ §

昭和50年30人の有志で立ち上げ「かながわ衣生活研究会」を組織し、任意団体として日本の伝統文化の一つとしてきもの文化の健全な発展のため、縫う（作る）・よそおう（着る）・探求（管理）等の研修と実技を体得、普及活動、伝統文化発展の向上の一翼を担ってきました。

1995年（平成7年）神奈川県教育委員会より社団法人の許可、2011年（平成23年）内閣府より公益社団法人の認定を受けました。

§ 活動の内容 §

- ・着つけ教室の実施（初級教室36教室）
- ・服飾から見た庶民の生活史に関する資料収集、資料の公開展示（時代背景、風俗等を含む）
- ・和裁教室の実施
- ・リフォーム教室の実施
- ・特別講習会の実施
- ・受託事業
- ・みんなの「わっ!」フェスタへ“振り袖の着つけ”で毎回参加



初級教室風景

§ これからの課題 §

きもの文化の何をどう活かすか、目的を主張し呼びかけ、今まで培った本領を発揮し、会員が総力をあけて公益活動を推し進めていかなければならないと思っています。

南教室での活動

場 所 蒔田コミュニティハウス
日 時 第1・3水曜日 9時30分～11時30分
受講料 月額1,000円



振袖と帯結び特別練習風景

<お知らせ>

『アクセスみなみ』に活動紹介や仲間募集を掲載しませんか？

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジに利用登録すると、各団体が行っている市民向け講座やイベント、活動などをPRすることができます。

次回原稿〆切2月中旬(3月発行)。

3月下旬以降に開催するもので、政治・宗教・営利を目的とせず、公益性のある内容に限ります。詳しくは、みなみ市民活動・多文化共生ラウンジへお問い合わせください。

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

〒232-0024 南区浦舟町3丁目46番地 浦舟複合福祉施設10階

TEL 045-232-9544、045-242-0888(外国語対応) FAX 045-242-0897

<http://tabunka.minamilounge.com/>

相談時間: 午前9時～午後5時

相談言語: 日本語・中国語(毎日)、英語(水)、タイ語(木)、タガログ(金)

休 館 日: 第3月曜日 および年末年始(12/29～1/3)

